

広報

いせん



祝 世界に誇る環境文化と住みたいまち日本一へ 伊仙町町制施行60周年記念号



伊仙町HPにアクセス!

Facebook・YouTube(動画)でも、
町の情報をお伝えしています。





伊仙町長
大久保 明

昭和37年1月1日、伊仙村から伊仙町へと移行し、町制施行60周年という節目を迎えました。この節目を迎えるにあたり、「世界に誇る環境文化と住みたい町日本一へ」をスローガンに定め、2日間行った、伊仙町町制施行60周年記念事業では、多くのご来賓、郷友会、関係団体、そして町民のみなさまご臨席のもと、開催できましたことに對し、深甚なる感謝の意を申し上げます。誠にありがとうございます。

式典にて表彰を受けられましたみなさまには、さまざまな部門において長年にわたりご活躍いただきました。まちの発展と町民の福祉の向上のため、献身的に努力を重ねてこられたことに、深く敬意を表します。

また、前夜祭としてなくさみ館で行われました「伝統文化と芸能の祭典」において披露され

た島唄や踊り、闘牛のように、伊仙町には地域に根ざした世界に誇れる文化があり、世界に認められる自然があります。また、子どもたちが主役となり、堂々とまちの文化を示し輝いていたことは、とても印象的でありました。これらの宝は、島の人々が古くから受け継いできた純粋さ、情熱、やさしさが生み出したものであります。

近年は、世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、長期間の警戒が必要な状況が続いておりましたが、伊仙町においても、昨年3年ぶりにほーらい祭りが開催されるなど、明るい兆しが見えてきました。日夜ご尽力いただいた医療従事者のみなさま、感染症拡大防止に御協力いただいた町民のみなさまに心より感謝申し上げます。

この10年を振り返りますと伊仙町においても多くの発展的変化がありました。雇用創出による地域の活性化を図るため、平成28年には糸木名に企業誘致促進施設を建設し、航空宇宙分野の部品製造販売を行う日本マルコ株式会社が進出しました。

平成29年には、味の素A G F株式会社、丸紅株式会社、徳之島コーヒー生産者会、伊仙町の4者による「徳之島コーヒー生産支援

プロジェクト事業」が立ち上がりました。令和元年には、東京オリンピック・パラリンピックホストタウンとして、本町と同じ闘牛文化をもつ、ボスニアヘルツェゴビナの在日大使と闘牛協会会長を迎え、文化を通じた交流を行いました。

そして、令和3年は奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島が環境文化型世界自然遺産に登録されたのは奄美群島民の努力の賜物であり、徳之島の自然が世界に認められ、この上なく喜ばしく思うところであります。

また、伊仙町の子どもの活躍も輝かしく、全国スポーツ少年団剣道大会での優勝や、二名が甲子園に出場するなど、伊仙町の子どもの活躍にも全町民が勇気をもらいました。

今年は、奄美群島日本復帰70周年の節目でもあります。復帰運動を牽引し、奄美のガンジーと呼ばれた面縄出身の泉芳朗先生をはじめとした、先人たちの思いを後世に語り継いでいかなければなりません。

まちの象徴として建立された、泉芳朗先生および泉重千代翁の銅像、また犬田布岬の慰霊塔の保存継承や、次世代につなげる持続可能なまちづくりの実現に向けて、国や県と連携し、奄美

群島一丸となって取り組んでまいります。

日本社会で急速に少子高齢化が進行する中で、本町も悪戦苦闘しておりますが、定住人口・交流人口の増加は実現できると確信しております。

企業誘致を推進し、関西ブロードバンド株式会社、日本マルコ株式会社の伊仙町進出を皮切りに、株式会社モスク・クリエイションが進出、令和4年度には農業高校跡地にサテライトオフィスオープンさせ、株式会社NTTデータオートモビルジェンズ研究所が進出しました。東京一極集中から地方へという時代の中で、本町でも新たな企業進出の流れが加速してきています。

また、農福連携の推進など、多様な形で関わる関係人口が、地域に活力を生み、住民自治が町全体に広がっていきます。ふるさと伊仙町に誇りと愛着を持ち、まちの未来を町民のみなさまと共に考え、「町民総参加のまちづくり」で歴史や伝統を継承しながら、町政運営に取り組んでまいります。

本町が魅力と活力に溢れるまち、住みたいまち日本一としてさらに発展するよう、今後もお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞



伊仙町 議会 議長
前 徹 志

本日ここに、伊仙町町制施行60周年記念式典が挙行されるに当たり、伊仙町議会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

来賓各位におかれましては、ご多忙のところご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

昭和三十七年に町制施行されて以来、昭和から平成、そして令和へと続く、文字通り幾多の波乱と激動の中を、時には塗炭の苦しみを味わい、時には洋々たる前途に心を踊らされながら、私たちは常にたゆむことなく着実に前進発展を続けて参りました。今日の伊仙町を築いてくださった先人の方々の並々ならぬご努力に対して、深い感謝と敬意を申し上げますとともに、日頃より本町を支えて下さっており、ますます町民のみなさまに厚く御礼を申し上げます。

現在、日本は少子高齢化に伴う人口減少が急速に進んでおり

ますが、本町においても時代の変化に柔軟に対応し、町民のみなさま一人ひとりの想いに応え、住んでよかった、これから住み続けたいと思っていただけるようなまちづくり、まさに「世界に誇る環境文化と住みたい町日本一」を目指すべく、さまざまな施策のより一層の充実が求められております。

私も議会といたしましても、60年という歴史あるこの伊仙町を後世に引き継いでいくため、議会と行政が一体となつてなお一層、住民福祉の向上と町政の更なる発展を目指し努めていく所存であります。

本日、町制功労者として表彰を受けられましたみなさまには長年にわたり町政発展のため、それぞれの分野においてご尽力いただき、その多大なるご功績に対し、深く敬意を表し心よりお祝い申し上げます。

今後とも地域の指導者、町民の模範となられご活躍されとともに、本町発展のため、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

また、この度の記念論文「未来の伊仙町に期待すること」において表彰を受けられる、松岡天真さん、牧園優奈さん、誠にありがとうございます。



作品を読ませていただきましたが、島を離れてから、元気で情熱的な人の温かさや伝統行事・文化の大切さを改めて感じた中で、いつまでもこの島のあらゆる豊かさを残してほしいという思い、また、長寿子宝のまちをさらに活気づけ、地域の人の強い繋がりを作るアフターコロナに於いての町民一体型のイベント開催の在り方など、未来の伊仙町を魅力ある町、誇りを持てる町にしたいという想いがお二人の作品から伝わりました。

これからもこの伊仙町に育つたことを誇りとしていただき、それぞれの夢や希望に向かって

明るい未来を歩んでいかれますことを期待しております。

世界自然遺産に登録され、私たちは過去と未来をつなぐ今を生きながら、同時にこの豊かな島の自然や文化を後世へと残すべく大きな使命を担っております。

世代から世代へ、先人の意思を引き継ぎ、新しい伊仙を創造することが、六十年という大きな節目を越えようとしている、私たちに課せられた命題にほかなりません。

結びに、伊仙町町制施行60周年と奄美群島復帰70周年という節目の年にみなさまとこのように慶祝し、本町発展のためにご指導・ご協力賜りました関係各位に、甚大なる感謝を申し上げますとともに、併せてご参会のみなさまの益々のご活躍を祈念しまして、私の祝辞といたします。

令和五年四月十五日



鹿児島県知事
塩田 康一 様

みなさんこんにちは。

本日、伊仙町町制施行60周年記念式典が、町民のみなさまはじめ、御来賓、関係のみなさま多数御出席のもと、盛大に挙行されますことを、心よりお喜びを申し上げます。

また、ただいま、町勢発展に多大な御功績を挙げられ、栄えある功労者表彰をお受けになったみなさまに、心よりお祝い申し上げます。みなさまには、この受賞を機に、今後ますます御活躍されますよう心よりお祈り申し上げます。

伊仙町は、昭和37年から町制を施行されたということでありますので、私が生活していた昭和47年頃、ちょうど施行10周年の年だったのだなと今思い出しております。私自身この伊仙町の喜念浜で遊んだり、さまざまな体験をしていて、それから50年が経ったということで、大変感慨深いものがございます。また、今年は

奄美群島の日本復帰70周年の記念すべき年であります。ここ伊仙町の面縄出身の泉芳朗先生をはじめ、これまでの先人のみなさま方の御苦労に対し、心から敬意を表したいと思います。今年の11月には、日本復帰70周年の記念式典も予定されており、本日は関東、関西、中部からも多くの出身者のみなさま方もお越しになっておりますが、関係のみなさまとともに復帰のお祝いをしたいと思っております。

今年は、10月に燃ゆる感動がこしま国体が開催されます。奄美群島でも初めて国体競技が実施されるということで、70周年の復帰の記念競技として冠称を付すこととしております。

この60年の間、関係のみなさまが一体となって産業の振興や福祉の増進など、町政各般の施策の推進に御尽力され、私が生活していた当時に比べても町勢が大きく発展し、こうして今日の佳き日を迎えられることは、誠に喜ばしい限りでございます。歴代の町長、町の職員や町議会議員のみなさま、町民のみなさま、関係のみなさま方のたゆまぬ御努力と御尽力の賜であると深く敬意と感謝の意を表します。

一昨年7月に、御承知のように奄美大島・徳之島が世界自然遺

産に登録されました。私も幼少の時期を過ごしたふるさと伊仙町が世界の宝となったことは、非常に喜ばしく、誇らしく思っております。こうした豊かな自然に育まれた、闘牛文化をはじめ、多様な文化というのがこの奄美群島の魅力であり、今後、自然環境の保全と利用の両立、そしてこの地域の文化の継承といったことに向けて、地元の自治体、関係のみなさまとともに取り組んでまいりたいと考えております。また、伊仙町は子育て・長寿の島、子宝・長寿の島ということで全国的にも知られております。豊かな自然や食、そして地域社会全体で子育てをすることなど、少子高齢化が進む我が国においてモデル的な存在としての



可能性があるのではないかと考えております。

また、食料安全保障が我が国の大変重要な課題となる中で、温暖な気候を生かし、さとうきび・畜産・春一番のばれいしよなどの園芸作物をはじめとする農業が基幹産業となっており、大きな可能性をこの分野でも有しているというふうに思っております。

また、今年は、今年度末に期限を迎える奄美群島振興開発特別措置法については、令和4年度に地元のみなさま方、あるいは郷友会のみなさま方にもさまざまな御意見を伺いながら、総合調査を実施し、先般調査結果を公表いたしました。先ほど申し上げましたように、随分とこの60年間で町勢も発展してきておりますが、依然として、物流や教育、医療などさまざまな面で島の条件不利性、あるいはさまざまな課題が存在しております。今後は、この調査で明らかになった振興開発の方向及び方策に基づく各種施策を通じて、自然環境の保全や地域文化の継承などを図りながら、産業の振興と生活の利便性の向上を一層推進してまいりたいと考えております。

先般2月に、鹿児島県の新たな観光のキャッチコピーを「南の宝箱鹿児島」と決定いたしました。鹿児島には、世界自然遺産と

なっているこの奄美大島・徳之島や桜島などさまざまな豊かな自然があります。また、昨年の全国和牛能力共進会で2大会連続で日本一に輝いた鹿児島黒牛など、豊富な食の宝庫でもあります。こうしたさまざまな宝物を有している鹿児島に、多くのみなさんに訪れていただきたい、そして触れていただきたい、また、地域のみなさんに身近にある宝物を認識し、また新たな宝物を創り出す、あるいは磨いていく、そういったことを祈念いたしまして「南の宝箱鹿児島」というふうに決定いたしました。

そうした中で、この鹿児島県の宝である奄美群島の更なる発展を図るため、伊仙町をはじめとする地元各市町村のみなさま方、関係のみなさま方と緊密に連携しながら、全力を挙げて各般の施策に取り組んでまいりたいと考えております。みなさま方の一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町制施行60周年の節目を契機として、伊仙町が今後ますます発展されますことと、本日御出席のみなさま方、御健勝・御活躍を心から祈念いたします。お祝いの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

令和五年四月十五日



鹿児島県議会議長(式典当時)

田之上 耕三 様

本日、「伊仙町町制施行60周年記念式典」が、関係のみなさま多数御列席のもと、開催されますことを心からお喜び申し上げます。

先程、町政功労者表彰並びに感謝状をお受けになりましたみなさまにおかれましては、これまでの御労苦と御功績に対しまして、深く敬意を表しますとともに、栄えある受賞を心からお祝い申し上げます。

さて、伊仙町は、昭和37年に町制を施行して以来、温暖な気候に恵まれた風土の下、サトウキビやパレイショなどを中心に、農業や畜産業などの振興に町民が一丸となって取り組むとともに、豊かな自然や、「闘牛」、「目手久八月踊り」などの伝統文化を受け継ぎながら発展してこられました。

また、令和3年7月には、徳之島と奄美大島が、生物多様

性の保全上重要な地域として、沖縄本島北部・西表島とともに世界自然遺産に登録されるなど、大変明るい出来事もありました。

これもひとえに、歴代の町長のみなさまをはじめ、関係機関、そして町民のみなさまの御尽力の賜であり、深く敬意を表する次第であります。

現在、我が国は、人口減少や少子高齢化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症や原油価格・物価高騰など、さまざまな課題に直面しているほか、デジタル社会や脱炭素社会の実現など、新たな時代の潮流とともに、社会経済情勢が大きく

変化してきております。

このような中、伊仙町の更なる発展を期するため、町制60周年を契機として、こうした時代の流れと、増大し多様化する町民のニーズを的確に把握していただき、大久保町長を先頭に、町民のみなさまの一致協力のもと、伊仙町が持つさまざまな特性を生かしながら、魅力あるまちづくりに御尽力いただきますよう、お願いいたします。

今年は、奄美群島が日本に復帰して70周年の節目を迎える年でもあります。私も県議会といたしましては、次の世代に誇りと責任を持てる「ふるさとづくり」のため、今後とも、みなさまとともに手を携えながら、各種施策の推進に全力を傾注してまいりる所存でありますので、なお一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、町制施行60周年を迎えられました伊仙町の今後ますますの御発展と、町民のみなさまをはじめ本日御列席のみなさまの御健勝・御活躍を祈念申し上げます。県議会を代表しましての祝辞といたします。

令和五年四月十五日



■代読:寿 肇 鹿児島県議会議員

伊仙町町制施行60周年記念

表彰者一覧

※写真は表彰当日に出席された方（代理人含む）を掲載しております。



幸山忠蔵さん

功労者部門

前夜祭・式典にて町制施行60周年を記念し、自治・教育・社会教育・産業経済・社会福祉衛生などの分野で、町政の発展・福祉の向上において功績を残された方々、また過去10年間で、徳之島闘牛連合会で公認されている全4階級でそれぞれのタイトルを獲得するとともに、町無形文化財として指定されている牛なくさみの継承に寄与された方々に、町長より表彰伝達並びに感謝状の贈呈が行われました。



中量級チャンピオン

社会教育功労部門



全島一チャンピオン

社会教育功労部門



ミニ軽量級チャンピオン

社会教育功労部門



軽量級チャンピオン

社会教育功労部門



廣瀬玲子さん

感謝状



幸山忠蔵さん

感謝状



山田哲男さん

瑞宝双光章



元田隆丸さん

旭日双光章



自治功労



自治功労



社会教育功労



教育功労



社会福祉衛生功労



産業経済功労



社会福祉衛生功労



社会福祉衛生功労

伊仙町町制施行60周年記念式典 前夜祭の様子

「伊仙町伝統文化と ～次代に伝えるべきもの～ 芸能の祭典」

4月14日(金)なくさみ館において、「伊仙町町制施行60周年記念伊仙町伝統文化と芸能の祭典～次代に伝えるべきもの～」を開催しました。

本イベントは伊仙町町制施行60周年を祝福するとともに、町民並びに関係各位のみなさまと伊仙町の魅力を再認識し、まちの宝である、伝統・文化・芸能活動を次世代につなぐきっかけにするため、行われたものです。

町内保育園園児によるダンスや太鼓のオープニングアクトからはじまり、伝統文化および芸能分野功労者の表彰式などが行われました。

第1部では「伝統文化と芸能の祭典」として、各集落で代々伝わる伝統芸能の披露、永田心花さん、指宿桃子さん、武成実さんの3名と、^{たけなるみ}内三千代さんによる島唄ステージで会場を沸かせました。

また、第2部の町無形文化財である牛なくさみでは、ゲストMCの伊波大志氏の実況で、令和富士と秀吉大宝の取り組みと、三幸摩守進と纏の取り組みの二番組が行われ、白熱した戦いに会場は熱気に包まれ、興奮冷めやらぬうちに閉会を迎えました。



黒潮太鼓

町内保育園児によるオープニングアクト





島唄ステージ

内三千代さん



島唄ステージ

武成美さん(左)
永田心花さん(中)
指宿桃子さん(右)



イッサンサン



シヨンマイカ踊り



棒踊り



牛なくさみ



牛なくさみ

伊波大志さん

伊仙町町制施行60周年記念式典 式典当日の様子

「伊仙町町制施行 60周年記念式典」

4月15日(土)町総合体育館において、「伊仙町町制施行60周年記念式典」を開催しました。

式典には、町民のみなさまをはじめ、ご来賓、郷友会、関係団体の方々など島内外より約300人が参加し、「世界に誇る環境文化と住みたいまち日本一へ」をスローガンに、60年のあゆみを振り返りながら盛大に節目を祝いました。表彰式では、叙勲の伝達のほか自治・教育・社会教育・産業経済・社会福祉衛生の各分野功労者表彰、感謝状贈呈など56組をたたえました。

また、「未来の伊仙町に期待すること」をテーマに募集した記念論文コンクールで最優秀賞に選出された、^{まつおかてんま}松岡天真さんが論文の発表をしました。^{まきそのゆうな}優秀賞の牧園優奈さんの論文は松岡さんの論文とともに町制施行60周年記念誌に掲載されています。

記念対談では、本町に支社を設置し、教育機関、病院、企業を中心にウェブやパンフレット、映像制作などクリエイティブ事業をとおして地方創生に取り組む(株)モスク・クリエイションの近藤恵一代表取締役社長と大久保町長が「徳之島に魅かれて～これからの伊仙町を語る～」をテーマに、映像を交え伊仙町の魅力について語りました。

式典の様子は、町公式YouTubeチャンネル「いせんチャンネル」で見ることができます。





表彰の様子



特産品を使ったウェルカムフード



表彰の様子



ご来賓のみなさん





Congratulations!



Sub arena!



Let's enjoy!





伊仙町町制 施行60周年

記

念

展

示

4月15日（土）～22日（土）、伊仙町町制施行60周年記念式典と合わせ、式典会場となりの総合体育館サブアリーナにて「伊仙町町制施行60周年記念展示」が行われ、200名を超える方が来場されました。

会場には、奄美群島の日本復帰運動を主導した面縄出身の泉芳朗氏により書かれた日記、手紙、未発表の小説、詩の展示をはじめ、伊仙町の自然や歴史の映像やパネル、子どもたちの絵画が展示され、多くの方が足を止めて見入っていました。

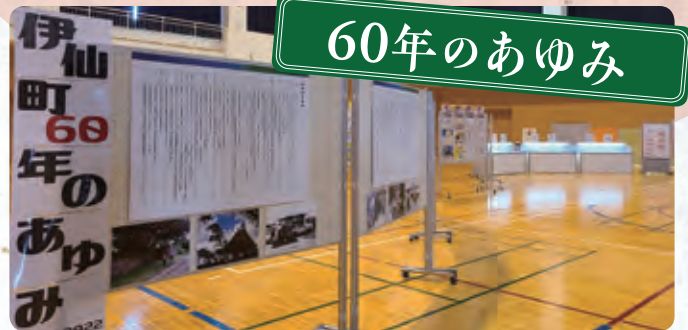
展示一覧

カムイヤキ



11世紀から14世紀頃に伊仙町で生産され、南九州から琉球列島全域に流通していた焼き物、カムイヤキ。その分布域は後の琉球王国の版図と重なる、貴重な歴史を物語っています。

60年のあゆみ



昭和37年に伊仙村から伊仙町へ生まれ変わってから60年、戦後の発展と伊仙町独自の歩みを振り返るパネル展示、映像資料の展示を行いました。

泉芳朗の足跡



奄美群島の日本復帰運動を主導した面縄出身の泉芳朗氏により、復帰前に書かれた日記を中心に、直筆の手紙や詩、小説など、歴史的にも貴重な史料を展示しました。

徳之島の自然



世界自然遺産登録を機に、伊仙町の暮らしと文化を作り上げる基盤となった足元に広がる自然のパネル展示を行いました。

闘牛文化



江戸時代に遡り「なくさみ」「牛トロシ」と呼ばれ、農閑期や行事ごとの娯楽として生まれた闘牛。その歴史や過去の名勝負などを展示しました。

小学生による絵画展



「こんなところにすみたい伊仙町」をテーマに、町内小学校に通う1年生から4年生が自由に描いた絵画の展示を行いました。

祝電

自由民主党選挙対策委員長
自由民主党奄美振興特別委員会委員長
衆議院議員 森山 裕

衆議院議員 三反園 訓

衆議院議員 保岡 宏武

衆議院議員 野間 健

自民党総務会長代理自民党
経済成長戦略委員長 衆議院議員 小里泰弘

衆議院議員 守島 正

参議院議長 尾辻秀久

農林水産大臣 参議院議員 野村哲郎

瀬戸内町長 鎌田愛人

味の素AGF株式会社 代表取締役 竹内 秀樹

株式会社阪急交通社

株式会社鹿児島銀行 頭取 松山 澄寛

奄美大島信用金庫
会長 築 愛三・理事長 伊東 寛久

関東徳州会 会長 岡村 隆文・役員一同

祝花

株式会社阪急交通社

株式会社モスク・クリエイション
代表取締役 近藤 恵一

関西ブロードバンド株式会社

徳之島ビジョン株式会社

株式会社奄美ブルー・スカイ農園

南西糖業株式会社

徳之島総合陸運株式会社

鹿児島公安委員会指定 徳之島自動車学校

祝電・祝花 寄付者ご芳名



たくさんの祝電・祝花・寄付を
ありがとうございました。

※敬称略、順不同／4月15日時点

寄附

平山 徳廣

水本 昭士

直江 宏晃

寿山 博文

盛 茂忠

守島 俊行

田中 絹子

徳之島総合陸運株式会社

大船文具店伊仙店

他1名

寄附（ふるさと納税）

伊東 廣志

栄 時弘

他6名

その他

株式会社
奄美ブルー・スカイ農園

記念Tシャツ500枚贈呈

株式会社ZO

味の素AGF株式会社

コーヒー500セット

世界に誇る 環境文化と 住みたい町 日本一へ



2023

4.14

伊仙町伝統文化と
芸能の祭典 入場無料
～次代に伝えるべきもの～

時間 18:00～20:30
場所 なくさみ館

2023

4.15

町制施行60周年
記念式典 入場無料

時間 10:00～12:00
場所 伊仙町総合体育館

YouTubeで生配信
徳之島 伊仙町 60周年

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、プログラムの内容を変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。



ふるさと納税60周年記念限定返礼品
受付はふるさと納税ポータルサイトにて。
※当日式典会場での寄付受付もしています。
令和4年度さばらでえ伊仙応援基金活用事業



ご来場の際して

- 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、必ずマスクの着用をお願いします。
- 会場の入り口では、非接触型体温計を用いた検温を実施します。発熱のある方は入場を制限します。
- 入場後も常時マスクを着用いただき、咳エチケットへのご協力をお願いします。会場に消毒液を備え付けますので、手指の消毒を行ってください。

伊仙町公式HP

